

大学の研究成果を電子的に発信する窓口としての学術ポータルサイトは以下を目的として構築される。

- ・ 機関の研究・教育成果を発信して共有する
- ・ 電子的な研究・教育成果を恒久的に保存
- ・ 研究・教育成果の可視性を高めて機関の認知度を上げる

学術ポータルサイトの構築について、2008 年度予算の申請時に計画した導入システム、サーバ機器、業者の選定について追記します。

選定にあたっては、図書館委員会、紀要委員会、および 2008 年度予算の査定時で説明してあります。

1. システムの選定

ハードウェア、ソフトウェアの選定には、購入・維持等の費用面、設定・カスタマイズ等の技術面、インターフェース、登録・管理等の機能面、セキュリティ等の安全面を考慮する。

1.1. ハードウェア

「恒久的に保存」という将来設計を見据え、導入ハードウェア機器は拡張性および堅牢性を重視してIBM機器を視野に入れる。ハードウェアの設置場所は図書館7階サーバ室内の現有ラックの空スペースを利用する。現在、サーバ室内は安全面を考慮して図書館システム、基幹LANシステムのメンテナンス業者「(株)富士通」と図書館7階オープンPCフロアサーバ機器メンテナンス業者の「(株)ティ・エス・エス」の入室を許可している。ネットワーク管理部署として、学内の新規事業に対する業者に対しては7階事務室への立ち入りを制限している中において、新たに参入する業者を望まず、現在許可のある「(株)ティ・エス・エス」が、IBM機器の取引および保守について実績をもつために候補に値すると判断する。

1.2. ソフトウェア

「学術ポータルサイト」の構築について、NII(国立情報学研究所)が「学術機関リポジトリ構築支援事業」を行っており、支援を受けた機関の多数が導入するソフトウェア「DSpace(ディースペース)」と「XoNIps(ズーニプス)」について検討する。結果、導入実績、ユーザビリティ、メンテナンス等および導入各大学の感想を総合して「DSpace(ディースペース)」を選択する。

「DSpace(ディースペース)」はMIT(マサチューセッツ工科大学)が開発するオープンソースで、HTML、Java、CSS等で構成されメンテナンスを容易にする要素がある。

2. 業者の選定

「DSpace(ディースペース)日本語版」を選択した段階で、製品を開発したソラン株式会社と日本ヒューレット・パッカートの共同体が候補になるが、タワー式サーバ機器(HP製品)等の提案と250万よりの提供価格、およびリモートによるメンテナンス対応に難色を示す。また、タワー式サーバ機器は設置スペースの確保と新

たに専用の電気配線工事を伴うもので、現有資源の有効活用を阻む提案である。

「DSpace(ディースペース)日本語版」の導入を視野に入れつつ、道内の業者を模索する。

一方で機関リポジトリを公開する大学で構成されたデジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation)、通称「DRF(ダーフ)」に参加して情報の収集に努める。この段階で、コンテンツ作成を主とする「株式会社アグレックス 札幌支店」が道内外において「DSpace(ディースペース)日本語版」の納入・構築において実績・評価が高いことで候補となる。サーバ機器を選ばない、著作権許諾における出版社対応、スキャン処理による pdf ファイルの品質等も評価対象となる。

また、地元業者の優位性は「Face to Face」で情報のやり取りが可能、結果カスタマイズ等の利便性が即座に発揮できることにある。

同じ地元業者として、本学の製本を担う業者ナカバヤシがアウトソーシングの一環として学術ポータルサイト構築の提案書を提出するが、前述のソラン株式会社との協同のため導入機器の関係、コンテンツ作成担当者の派遣という形態で候補にすることが適わなかった。

総合的判断して、サーバ機器を「(株)ティ・エス・エス」に、コンテンツ作成を「株式会社アグレックス 札幌支店」に依頼することを選択した。

3. 学内のほかのデータベースとの協調

学内には多くのデータベースがあり、内容やコンセプトの重複がある。情報を提供する側の教員の負担も問題となりつつある。このような状況から、学内における知的資源のあり方をトータル的に調整することが必要となる。既存の研究業績系データベース、EX活動系データベースとの協調を図り、学内の情報インフラの整備を実施していく。

このことは、学長より学務部長をつうじて図書館長が取りまとめるよう指示があった。

添付資料:

「株式会社アグレックス 札幌支店」提案関係書類

「株式会社アグレックス」会社概要

「ナカバヤシ株式会社」提案関係書類

参考資料:

『次世代学術コンテンツ基盤協同構築事業 中間まとめ』国立情報学研究所